

●人形芝居や中元の儀礼、絵入り紙符に込められた民衆の祈り。台湾・香港の調査行と文献渉獵から描き出す民衆道教の実像。「道教とは何か」を知る最良の入門書。

民衆道教の周辺

可児弘明 著

次に付言したいのは、本書の各所で使用し、かつ書名にも取り入れている「民衆道教」の語についてである。この語は、道教を教団道教（成立道教）・民衆道教（民間道教）に区分し、道観を中心にして行なわれる道教を教団道教、道観以外において行なわれる道教を民衆道教と呼ぶ二分法に出ている。これによると、香港と台湾で行なわれる道教はすべて民衆道教ということになる。両地ともに仏教寺院に対比される意味での道観がいつい出現をみるに至らなかつたところであるからである。香港の青松観は道観としての一面を備えるが、あくまで一面にとどまり道観の範疇に入れがたい存在である。

ところで私自身が民衆道教の語を用いるようになったのは台湾の鸞堂に関する所見を発表したときからである。鸞堂は民間の庶民自身がつくりだした公開の宗教結社であり、善書を刊行し、三教合一の信仰内容をもつので、民衆道教の語を用いることに何のためらいもなかつた。しかし、私の調査対象は民間宗教結社だけでなく個人個人がみせる信仰をも含んでいる。これは私の個人的な研究関心によると同時に、香港の地域的特性にもよるといってよい。香港には地域集団によって維持運営される寺廟、信者集団によって維持運営される寺廟が少なからず存在するが、信仰している宗教が何かを聞かれた中国人の多くが答えるのは「仏教」であり、道教という人は少ない、儒教だと答える人に至っては稀な土地柄なのである。ところが、「仏教」と答えた人も、必ずしも釈迦を唯一の教祖とあがめ、組織された仏教教団に所属し、教義どおり生活しているわけではない。このことは台湾やシンガポール華人社会においても共通に体験するところである。あくまで「」つきの仏教なのである。ではなぜ道教よりも仏教と答えるものが多くなるのであろうか。……（序文より）

●目次

はしがき

第一部 民衆道教の周辺

- 一 扶鸞雜記
- 二 人形芝居と道教
- 三 誼子の慣行について
- 四 農曆七月の台湾農村——公普、搶孤
- 五 「太平清醮」小考

第二部 流通する儀礼

- 六 絵入り紙符に関する一考察
- 1 前言
- 2 香港使用の紙符、金銀紙、紙衣
- 3 紙符
- 4 金銀紙・紙衣
- 5 考察

第三部 道教研究の現場

- 七 「残された中国」の現地研究
- 1 中国大陸から「残された中国」へ
- 2 先行する欧米人の現地研究
- 3 道教的文化と文献史学、民俗学
- 4 イベント的な総合調査
- 5 新しき芽生え

あとがき 索引

体裁

- ・四六判・上製・カバー
- ・三二〇頁

税込み定価

- ・二六二五円
- （本体二五〇〇円）

発行所 風響社

114-0014 東京都北区田端四一―四一九
電話〇三（三八二八）九二四九
http://www.fukyo.co.jp

注文書	
流通センター取扱品	
発売	税込み
風響社 TEL: 03-3828-9249	二六二五円
部	

可児弘明著
民衆道教の周辺

ISBN4-938718-099-2 C1014 ¥2500E

〔お客様控ええ〕

ご氏名
ご住所

お電話

月 日